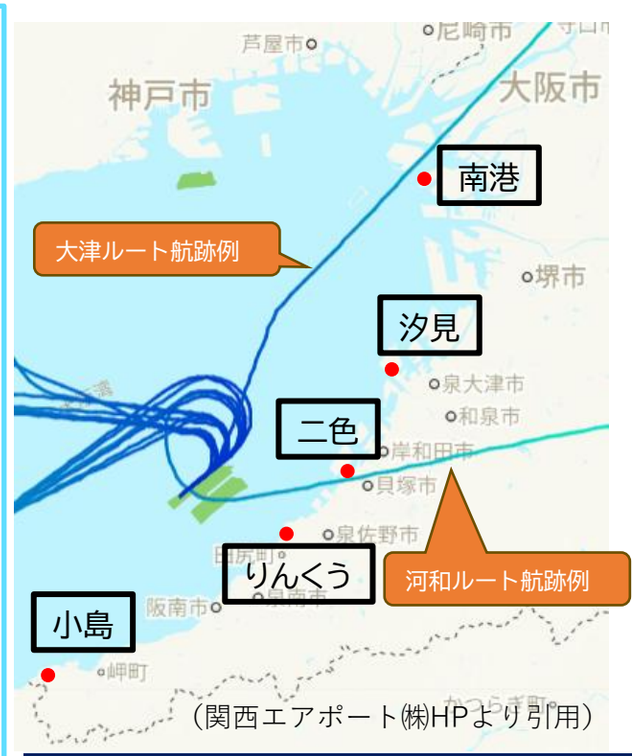
新飛行経路導入後の状況

資料４
（KAP作成資料）

2025年3月20日より新飛行経路の運用が開始された。
⇒ 発着調整基準：１時間あたり45回 → 60回
（関西国際空港の年間発着容量を23万回から30万回に拡大）

【環境監視の強化】
・飛行情報の一般公開
騒音情報及び１便毎の飛行情報（航跡、高度、日時情報など）を関西エアポート㈱のホームページに原則、翌営業日に公開
・経路外飛行時の情報共有
経路外飛行について、関西エアポート㈱が、システムで自動抽出し、管制からの報告を集約し、自治体（泉州９市４町、大阪市、大阪府）へ情報提供
・環境影響に関する連絡調整会議
安全性の確保を前提に、住民の生活環境への負担をできる限り軽減するため、国土交通省、関西エアポート㈱、大阪府の専門職等で構成する「環境影響に関する連絡調整会議」を新たに設置し、システムで収集したデータを基に、飛行状況、騒音状況、苦情発生状況などを分析・議論



（関西エアポート㈱HPより引用）

図 飛行ルート及び騒音常時監視測定局位置図

2025年度の状況

運航状況	○ 発着回数は、2024年度19.9万回から、2025年度20.7万回に増加した。（前年度比104%）
騒音値	○ 常時測定局の騒音値は表に示すとおり、予測レベルと比較して下回っていた。 ○ また、環境基準を大きく下回る結果となった。 →詳細は資料１
飛行高度	○ 陸域進入高度については、大津ルート、河和ルートともに定められた制限高度（5000フィート）が遵守されていた。 →詳細は資料２
苦情	○ 大阪府域からの苦情は24件であった。 ○ 苦情・問い合わせに対して、引き続き丁寧に対応していく。 →詳細は資料３

表 関西国際空港 騒音値（Lden） 単位：dB

常時監視測定局	環境基準	予測レベル	2025年度	（参考）2024年度
南港	62	~40	30	21
汐見	62	–	34	36
二色	57	40~44	34	38
りんくう	62	–	34	35
小島	57	48~52	37	45

【まとめ】
○ 新飛行経路の運用開始より１年を経過し、基準を遵守した運用が行われている。
○ 今後、発着回数が増加していくことが想定されるため、引き続き環境監視結果を注視し、住民の生活環境への影響抑制の取組みを継続していく。